
領域名：基礎看護

報告者：伊良波理絵

教育及び実践の課題

私たち教員は、文献レビューを教育、研究、実践のなかで、エビデンスの確認や、研究や教育内容の動向の確認のために、行っている。また、学部学生や大学院生が文献レビューを行う際には、適切な方法でレビューが行われているかについて指導を行っている。そのため、適切にレビューを行うことやレビューの指導を行うことは、私たち教員の課題であり、その方法を模索しているところである。

文献レビューについては、様々なテキストがあり、レビューの方法やレビューした文献のまとめ方などについて記載されているが、今回の研究論文は、文献レビューを定義したうえで、定義に基づいて選択されたレビューを分析し、体系的に統合された文献レビューのための方向性を示すものであり、適切なレビューとレビューの指導に役立つのではないかと考えた。

活用した論文の概要

この研究は、体系的な統合された文献レビューを行う指針を提示することを目的として実施された。体系的な統合された文献レビューを、(a) 論文を検索し、分類し、分析する方法による体系的な、(b) 手順の段階的な記述について明示的な、(c) 文献が入手できる情報源の全てを含む包括的な、(d) レビューにおける手順と方法をまねる同じ専門分野の者が再現できる文献レビューと定義した。データベース検索で 1474 件の文献が検索され、包含的基準に基づき、267 の文献が選択された。そして、体系的な統合された文献レビューを実施していくうえでの指針が示された。

教育及び実践への活用

研究で示された定義は、適切なレビューの文献を選択するためのガイドになり得ると考えたため、基礎看護領域で文献抄読会を行うための文献を選択する、注射技術を指導するためにエビデンスとなる文献を選択するなど、文献を選択する機会は様々にあったが、その際に、示された定義を参考に文献を選択した。また、学部学生に、レビューの文献を選択するときのポイントとして示すなど、指導に活用することができた。

基礎看護領域の文献抄読会でつかったレビューの文献を、この研究で示されたガイドラインに沿って確認したところ、文献を検討していく上での特定の理論的視点、もしくは、枠組みがないこと、個々の研究を分析するための評価基準が明確に示されていないことが分かった。確かに、文献抄読会でつかったレビューの文献は、看護技術の教授法について 11 件の文献をレビューした内容であったが、文献選択の条件は記述されていたものの、検討するにあたっての本質的な考え方が曖昧であり、理論的視点が十分ではないかだとの考えに至った。

以上のように、この研究結果は、それを活用して文献レビューを行うには至っていないが、すでに報告されているレビュー文献を検討することに活用できている。

参考文献

記載例：Eun-Ok Im and Sun Ju Chang (2012) : A Systematic Integrated Literature Review Guideline in Nursing, Journal of Nursing Education, 51(11), 632-640.
